

# 自然と触れ合う子どもを導く 里山里海のリーダーを養成

## 2校目の自然学校開校で 人材確保が急務に

角間キャンパス内の里山をフィールドに活動する「角間の里山自然学校」に続き、平成18年10月、三井物産環境基金の支援を受ける「能登半島里山里海自然学校」が珠洲市三崎町小泊を拠点に開校した。開校が決まっただけで、自治体などから児童、生徒を対象にした自然体験活動開催への協力、講師の派遣といった要望が相次いで寄せられ、地元への期待の高さがうかがわれた。



自然体験活動のベテラン指導員による講義



雑木林の手入れ方法を地元ボランティアに教わる

大学では2校目の自然学校ということもあって、里山里海自然学校で提供するプログラムの内容や進め方など、いわゆるソフト面についてはこれまで培ってきたノウハウを基に対応することができた。しかし、事業拡大時に必ずと言っていいほど問題になるのが人材の確保だ。

プログラムの内容もさることながら、子どもたちを導く人材に対する保護者らの期待は大きい。ましてや子どもの安全に関わる役目だけに、一定のスキルを持った人材が必要となる。大学も体験活動を実施するたびに信頼できる人を

探しだし、派遣しなければならぬ。そこで、大学が今年度からスタートさせたのが「里山里海リーダー養成講座」だ。

## 大学生がノウハウ学び 目配りできる指導者に

自然体験活動には、多いときで数十人の子どもたちが参加する。しかし、屋外が中心の活動で講師が一度に目を配れる人数には当然限りがある。ここで養成する里山里海リーダーとは、そんなときに子どもたちの安全を確保しながら活動をきめ細かく補助する、いわ



民宿のお母さんからアウトドア料理を習う

自然と向き合い、実際に見て、触れて、時には火や刃物を使用しながら体験活動を満喫する金沢大学の自然学校。外で遊ぶ機会が減っている現代の子どもたちにとっては貴重な体験だ。そんな活動を安全に楽しく運営するための人材不足に悩まされていた自然学校で昨年の春、学生を活動のリーダーに育てる取り組みが始まった。

社会貢献室研究員 中村晃規



採集したキノコを調べる子どもたちとリーダー

能登での1泊2日の合宿を含む4日間で、基本となる指導者としての心構えや里地についての専門的な知識を学ぶ座学、田植えや里山保全活動といったプログラムへの体験参加、赤十字指導員による急救命法などの講習を受けた。こうして誕生した里山里海リーダーは、自然学校からの要請に応じ、輪島市や珠洲市、金沢市周辺で開催された10もの自然体験活動に参加し、活躍した。

## 県内各地で力を発揮し 大学と地域との交流促す

「班長」的役割を担う人材だ。昨年5月、金沢大学五十周年記念館「角間の里」に同大を含む県内の大学から8人の学生が集まった。CONE(コン・NPO法人「自然体験活動推進協議会」)の「自然体験活動リーダー養成カリキュラム」に沿った「里山里海リーダー養成講座」を受講する学生たちだ。CONEとは自然体験活動の普及、指導者の育成に取り組んでいるNPOで、ここが定めたカリキュラムを修了すれば、一般にも指導者としての技能・知識を持つと認定される。

里山里海リーダー養成講座では、昨春に誕生したばかりの里山里海リーダーだが、すでに自然学校での体験プログラムには必要不可欠な存在になっている。里山里海自然学校に常駐する赤石大輔研究員は「講座を修了した学生には、小泊の自然学校を舞台に地域と大学をつなぐ架け橋になってほしい」と期待を寄せる。大学では、県内の自然体験活動を支える人材を育成していくとともに、大学生と地域とのさらなる交流を促すため、来年度以降も講座を開講し、リーダーを養成していく。